神戸新聞 2016年07月01日 金曜日 面名 丹波 １３ 23ページ

ケージの中で鮮やかな羽を広げるオオムラサキ＝ささやまの森公園

気品漂う深い青紫

オオムラサキ羽化 ささやまの森公園

国蝶に指定されている希少種「オオムラサキ」が羽化し、県立ささやまの森公園（篠山市川原）のケージ内で飛び交っている。気品ある姿で、７月中頃まで見ることができるという。

オオムラサキは、環境省の準絶滅危惧種に指定されている。羽は深い青紫色で、白と黄色の斑点模様が入っているのが特徴だ。

チョウは羽化した後、産卵し、ふ化した幼虫は落ち葉の下で越冬する。エサとなるエノキの新芽が出る５月ごろに木に登って葉を食べ、６月初旬にさなぎになる。

同公園では同じくオオムラサキを育てる丹波の森公苑とも協力しながら2009年から飼育している。７月中旬までに10匹ほどが羽化しそう。同公園☎079・557・0045

（井垣和子）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① このたび、ささやまの森公園で羽化した「国蝶」とは、何ですか？（　　）

② このチョウの特徴（とくちょう）について書いてあるところを見つけ、マーカーで印をつけましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

名 前 【　　】